あご祭り2023

(久原本家グループ)



TORIUS to BIZ Event Report vol.1





130年分の“ありがとう”
第4回あご祭り
見て・食べて・体験して
あごのおいしさと魅力満点の2日間!

久原本家グループ

去る10/14(土)、15(日)の2日間、久山町に本拠を置く久原本家グループ主催による『あご祭り』が開催されました。このイベントは4年ぶり4回目。今回は久原本家グループが創業130年を迎えるにあたり、地元、久山町への日頃の感謝も込めて、トリアスが会場に選ばれました。また、15日に開催された久山町のお祭り“祭りひさやま2023”とも連携し、大いに盛り上がりました。

まずは当日会場に配置されたブースをご紹介いたします。
飲食ブース、体験コーナー、あご加工品や野菜などの物販コーナーで盛りだくさんです。
今回の「あご祭り」のメインでもある、炭火焼の『あご』を一人一尾ずつ振舞うコーナー、現地で水揚げされた『あご』の加工品を販売する屋久島、新上五島町のブースでは、おいしい手作り加工品を販売。
おかずにも、晩酌のおつまみにもしっくり来そうな『あご』の加工品もあります。

※『あご』とは九州北部から日本海側の地域で呼ばれている「トビウオ」のこと



久原本家グループの商品を販売するブースも、目を引くものばかり!おなじみの茅乃舎のだし類、地域限定の商品も盛りだくさん!東京、大阪、京都、博多などなど・・・。もつ鍋のつゆも、これからの季節重宝しそうです。明太子でおなじみの「椒房庵」のイカゆず麹漬の試食などは、思わず白いご飯が欲しくなりました。





“福岡なのになぜ北海道?”と思いつつ、『北海道アイ』のブランド名で、北海道工場で製造されている豚丼のたれには心惹かれる~と思っていたら、そのお隣では豚丼を販売中!香りに誘われて足がふらふらと進んでいきます。北海道アイの商品は“北海道への愛”が溢れるモノばかり。





あの広大な大地の恵み、そして北海道ならではの海の恵みたっぷりの北海道だしのシリーズや、スープカレーなどトレンドも取り入れながらの商品展開になっています。辛子明太子に代表される海の幸でお世話になった“北海道”に恩返しの気持ちで作られたのがこの北海道アイブランドだそうです。



飲食ブースを回っていくと、すべてのブースのお料理に、グループで販売されている商品が使用されています。
あごだし醤油もつちゃんぽんには、“博多もつ鍋つゆ 醤油”が。





だしふりポテト・ポップコーンのコーナーでは茅乃舎の“野菜だし”の中身を振りかけてふりふりしたポテトが大人気でした。









あごだし唐揚げコーナーは、看板どおりに久原の“あごだしつゆ”に1時間以上漬け込んで揚げた風味豊かな唐揚げです。会場の一番奥の隅に出ていたみたらしソフトクリームコーナーにはお天気も良かったこともあり、早い時間から行列が出来ています。ソフトクリームにかけられているみたらしのタレは、久原の“あごだし仕立て てりがでる和食のあまいたれ”が使われていました。



お隣のブースでは茅乃舎 和栗のだしおこわ!秋の香り満載です!“茅乃舎 白だし”を使って炊き上げられた逸品でした。





飲食ブースもさることながら、お子様向けに“こいのぼり”ならぬ、「あごのぼり」づくりのワークショップや、実際に『あご』に触れる体験ができる“あご博物館”ブース。長崎県の平戸市・南松浦郡新上五島町、鹿児島県の熊毛郡屋久島町と久原本家グループが発足した「九州あご文化推進委員会」により九州伝統のあごの食文化を広めることを目的に、『あご文化』を発信する通信「あご便り」なども配布していました。





他にもステージでの楽しいクイズ大会や、キッズのダンス・チアのチームのダンスステージ。日頃からイベントを実施しているトリアスプロデュースで地元のダンスkidsたちが会場を元気に盛り上げてくれました。さらに、北海道アイのキャラクター、クマのアイちゃんのクイズ・じゃんけん大会など楽しい催し盛りだくさんの2日間。実行委員会の皆さんの想いの通り、焼きあごも飛ぶように振舞われており、おいしい笑顔がいっぱいで、どこもかしこも、スタッフの皆さんの『あごに対する愛』が溢れていました。





このイベントを成功に導くべく、『あごに対する愛』をフルに発揮し、企画、準備、運営に尽力された、実行委員長 森崎 明氏にお話を伺いました。



実行委員長　森崎 明氏
株式会社 久原本家グループ本社
久原みらい研究所 主任・研究員

久原商品のおいしさのキモである『あご』をもっと知って欲しい!

森崎実行委員長：4年ぶり4回目の開催になった、この「あご祭り」。スタートしたきっかけは、当社の商品に多く使われている原料の『あご』が、おいしさの“キモ”になっており、そのおいしさを皆さんに知っていただく機会として、お祭りを開催しています。実際にこの会場に来て、『あご』を食べてもらう、“おいしいね”と感じてもらって、商品を楽しんでいただけたらなと思っています。

コロナ明けと創業130年のグッドタイミングでの再開で地元への感謝を伝える

この「あご祭り」はコロナが明けて4年ぶりの開催です。コロナの影響で2019年の天神中央公園以降、実施できていませんでした。1回目と2回目は久原本家で開催しましたが、今回は創業130年という記念回でもありますので、地元久山のトリアスさんを会場に、開催させていただくことになりました。

創業130年ということで地元への恩返しの意味もあり、地元の方がお越しいただきやすいということが一つ、ふだん買えない、地域限定商品を地元の方に使っていただきたいという気持ちです。お出汁は、関西、東京など、通常は店舗に行かないと買えない限定ものが、今回はここで買えるようになっています。また、15日は地元のお祭り“祭りひさやま”とのコラボ企画でスタンプラリーで会場を繋ぎました。

久原本家グループが“あごだし”で知られるようになったきっかけ

久原といえば、“お醤油”や、“キャベツのうまタレ”が全国的にも有名ですが、“あごだし”で知られるようになったきっかけが、飲食店の「茅乃舎」で、出汁にトビウオ『あご』を使用していたことが始まりで、料理人が配合を色々考えて提供された食事の出汁がおいしいと評判になりました。そこから久原醤油でも“あごだしつゆ”などに『あご』を使い始めており、10年以上の歴史があります。

(2006年より「茅乃舎のだし」製造販売開始)。

社員の有志・漁場の方々が届ける『あご』のおいしさを伝えたいという想い

今回の『あご祭り』では久しぶりのイベントを盛り上げようと、実行委員会がメインとなって、久原本家グループ約1200名いるスタッフのうち、博多オフィスと本社工場中心に14日だけでも100名以上が参加しています。両日で約220名が支えてくれています。また屋久島



や新上五島、野菜のブースはFoodwayさん、焼きあごは現地の方にもご協力いただいています。会場のトリアスさんにも準備段階から本番までの間、実に細かく協力・支援いただいてきました。

※トリアスのFoodway店内にはくばら商品のコーナーあり

私も実行委員長として、企業理念にある「モノ言わぬ　モノに　モノ言わす　モノづくり」ということを大切に、今回の『あご祭り』でも、たくさんの方にご来場いただき、あごの魅力を知っていただきたいと思っています。このように、森崎氏のあご祭りに対する熱い想いを語ってくださいました。



14日には会場に視察に訪れた河邉哲司 社主も来場され、お客様と一緒に炭火焼のあごに舌鼓を打たれていました。

イベント1日目も終わりも近づいてきた頃、地元久山町の西村 勝町長も会場に駆けつけてくださり、お客様、町民の方々と一緒に、笑顔でイベントを見渡していらっしゃいました。



久山町長　西村 勝氏
2020年　第6代町長に就任。
元町職員としても久山町のまちづくりに携わった経験を活かし、町民とともにつくる町政を推進している。

この機会にと、西村町長にも今回のイベントも含め、久原本家グループ、トリアスに対して期待することなど、ひと言お話を伺いました。

西村町長　企業経営を長く継続していくことは非常に困難なことだと思いますが、イベント会場のトリアスさんがこの地で創業されて25年、久原本家グループさんは創業130年と長くこの地に根付いてくださっています。今回のように、地元の会社同士が繋がり、地元でイベントを実施してくださることは、久山町としても大変喜ばしく、全力で応援しています。
また、町と企業がお互いパートナーとして、町を盛り上げていこうとする姿勢は、まちづくりにおいて、とても大切であり、久山町は町の規模が小さいからこそ企業との距離が近く、いい関係が築くことができていると思います。これからも、企業の皆さまとともに久山町を盛り上げていきたいです。

— Company —	
社名	株式会社久原本家グループ本社
従業員数	1,246名（2023年2月末時点）
創業	明治26年（1893年）

<主催>株式会社久原本家グループ本社
<協賛および共催>九州あご文化推進委員会
[長崎県平戸市・南松浦郡新上五島町・鹿児島県熊毛郡屋久島町]、トリアス
<ライター>fortune 樺嶋ゆきえ　<カメラマン>笠井鉄正
<本インタビューに関するお問い合わせ>
トリアスマネジメント E-mail: info@torius.com